

目的 才1版(平成3年学会報告)同様、障害を持つ“ねんきり”老人にとって、どのような“ねまき”が、心地よく、快適なのか、また、病気の種類、障害の種類や部位などの違いに対して、どのような“ねまき”が、介護、リハビリテーション・ケアしやすいかと本研究では解明する。

方法 カンチレバ-法およびスライド法による剛軟性実験、フラジール形試験機による通気性測定を行った素材を用いた“試着ねまき”(初式ねまき=ネル、二部式=ガーゼ、男女兼用二部式=ゆかた地)による試着の実験。

結果 前年度は試着実験——脳出血、骨折、転倒に起因する“障害を持つねんきり老人”の実験につき報告した。総括的には、障害の悪化防止、介護・リハ訓練しやすさ“ねまき”への改良には、着脱・体位変換しやすさ、障害に対応した自動・他動の運動させやすさ、文脈を伴う場合には足のツ交換しやすさ、バルンカテ-テル使用の場合は採りやすさねまきに改良する必要性が抽出され、その改良につき提案した。才2版では、20人の試着実験の結果につき報告する。男性10人、女性10人のうち、実験記録を入手できたのは、女性5人(骨折2人、脳出血2人、頸挫損傷1人)の記録および改良についてその意見であった。障害の種類、障害度により、試着ねまきに対する問題点の指摘、改良意見に差異がみられた。その詳細は学会発表時に、データを示し報告する。